

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

- 1 シャザイの言葉を述べる。
- 2 水がジョウハツしてなくなる。
- 3 カンマン差の激しい海岸。
- 4 センモンカの意見を聞く。
- 5 貿易商を営む。
- 6 著作権を守る。
- 7 式は厳かに進化した。
- 8 詩歌を朗読する。

問二 次の□部に当てはまる色の名前を、それぞれ漢字一字で答えなさい。

例 試合に負けて、初めての□星となった。 答え（黒）

1 せっかく作り上げた計画が□紙に返ってしまった。

2 あの人は□の他人で、知らない人だ。

3 将来のことについて□写真を描く。

4 深□に包まれた山々。

5 アーティストがファンから□色い声援を浴びる。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

こうして海に流れ込んだプラスチックごみは、生き物たちを苦しめている。

まずひとつには、プラスチックごみは、生き物たちの体の自由を奪ってしまう。捨てられた漁網にからまってしまったウミガメ。脚に釣り糸が巻きついた海岸の海鳥たち。かれらは、こうしたプラスチックごみからめとられてしまうと、自分で工夫してそれをほぐすことはできない。動きが鈍くなれば敵に攻撃されやすくなり、えさをとる能力もおちる。自然は過酷だ。かれらは種をひきつぐ適者としてセイゾンできない。

「ゴースト・フィッシング」という言葉がある。「ゴースト」とは幽霊のこと。捨てられた漁網に入りこんだ魚やカニが、外に出られなくなってしまう。そこには、だれもいない。幽霊が漁をしているようだ。むかしは木綿や麻などの天然繊維でつくられていた漁網も、いまはプラスチックでできている。

オランダのヴァーヘニンゲン大学の研究者たちは、2015年に書いた論文で、プラスチックごみに苦しめられる動物たちに関する報告をまとめている。

ここでは、漁網のほか、ロープ、袋、シートなどさまざまなプラスチックごみが生き物にからみつく指摘されている。クジラには、首やひれにからみつく。まだ小さいころ首のまわりに漁網などが巻きついてしまったアザラシが、成長とともに苦しむ例。海鳥たちは、くちばしや羽、脚にプラスチック製のひもがからまってしまい、飛ぶこともえさをとることもできなくなる。海岸の砂のなかに産み落とされた卵からかえったウミガメの赤ちゃんが、漂着したごみにはばまれて、海にたどりつけないこともあるという。

アシカの仲間を観察した結果によると、若いアシカは好奇心が強く、プラスチックごみで遊んでいるうちに体に巻きついてしまうようだ。経験がアサク、プラスチックごみの危険性を知らないことも影響しているらしい。

海鳥のなかには、海岸でみつけた海藻で巣をつくるものも多い。そのとき、捨てられた漁網などを使ってしまう。親鳥もヒナも、これにからまって命をおとす。ウミガメでは、傷ついた皮膚が病気になるたり、脚がちぎれてしまったりすることもあるという。

もうひとつの代表的な被害は、それをえさと間違えて食べてしまうことだ。

1997年に公表された論文では、プラスチックごみをえさと間違えて誤食していた鳥、カメ、ほ乳類の種の割合は、調査したうちの33%だったが、2015年にまとめられたこの論文では、それが44%に増えている。

鳥の誤食については、えさを探すときのシユウセイが関係していると指摘されている。空から海面に飛び込むようにしてえさをとる鳥、魚より

c カニやエビなどの甲殻類、イカなどの頭足類をえさにする鳥、そして雑食性の鳥の誤食が多いようだ。オランダの沿岸で発泡スチロールを調べたところ、その8割に鳥がついたような跡がみられたという。えさになるものと間違えてしまったのだからという。

ウミガメは、えさのクラゲと間違えてレジ袋やビニール袋などを食べてしまうようだ。とくに冬季に食べてしまうウミガメが多いのは、えさのクラゲが減る時期だからかもしれない。

生き物がプラスチックごみを誤食すると、胃や腸の管をふさぎ、場合によっては手ひどい傷を負って死にいたることがある。誤飲したストローが胃壁を破って死んでしまったマゼランペンギンがいる。ウミガメの場合、胃は通過しやすく、腸を傷つけ、その機能に影響する。4・5トンのマッコウクジラの胃から7・6キログラムのプラスチックごみが出てきた記録もある。

プラスチックごみの誤食は、たしかに消化管をふさいだり傷つけたりすることはあるが、コアホウドリのひな鳥の調査によると、それは直接の死因になるといっても、栄養不足や脱水症状を引き起こす原因になっているらしい。ほとんどのひな鳥がプラスチックごみを食べていたし、そのほかウミガメも **d** ふつうに食べている。

プラスチックごみを食べて胃がふくらめば、もともと食べるはずだったえさが入る余裕がなくなる。おなかがいっぱいで、えさを探さなくなる可能性もある。シート状のプラスチックが腸壁に張りつけば、栄養の吸収をさまたげる恐れがある。プラスチックごみを食べた生き物は、こうして栄養不足になり、体がだんだん弱っていく。

(保坂直紀『海洋プラスチック—永遠のごみの行方—』より)

問一 部①～④のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問二 本文中 a d にあてはまる語句として適切なものをそれぞれあとのア～カから選んで記号で答えなさい。

ア ごく イ まだ ウ ただ エ さらに オ まるで カ むしろ

問三 部A 「海に流れ込んだプラスチックごみは、生き物たちを苦しめている」とありますが、本文では大きな問題点として二つ述べられています。その二つを本文中からそれぞれ十七字と十三字でぬき出しなさい。

問四 部B 「ゴースト・フィッシング」とありますが、「ゴースト・フィッシング」の原因となるものとして最も適切なものを、あとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 釣りをしているときに落としてしまったエサ
- イ 海中で切れてなくなってしまった釣り糸
- ウ 微生物によって分解できるプラスチック
- エ 魚の住みかとなるように沈めたコンクリートブロック

問五 — 部C「プラスチックごみに苦しめられる動物たち」とありますが、本文中に述べられている「苦しめられる動物」として、適切でないものを、あとのア〜オから一つ選んで記号で答えなさい。

ア 脚に釣り糸が巻きついた海岸の海鳥

イ 好奇心が強く経験が豊富なアシカ

ウ 捨てられた漁網にからまってしまったウミガメ

エ 捨てられた漁網などを使って巣を作る海鳥

オ 漂着したゴミにはばまれて海に出られないウミガメの赤ちゃん

問六 本文中たりと同じ用法の「たり」を使って、短文を作りなさい。ただし、解答には主語と述語を必ず書きなさい。

問七 — 部D「それ」とありますが、「それ」が指す内容を本文中から三十字以上、三十五字以内でぬき出し、始めと終わりの五字を答えなさい。

問八 — 部E「誤食」とありますが、「誤食」はなぜ生き物にとって危険のですか。次の空白に合うように六十字以内で説明しなさい。ただし、解
答には次の語句を必ず使用しなさい。

吸収 余裕

プラスチックごみを食べることで 六十字以内。

問九 本文の内容を説明したものと**して適切でないもの**をア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 昔から漁網は木綿や麻などの天然繊維で作られているので、今も生き物への影響はほとんどない。
- イ 海藻で巣を作る海鳥なども、捨てられた漁網やプラスチックごみで傷つくことがある。
- ウ 1997年から2015年にかけてプラスチックごみを誤食する野生の生き物が増加している。
- エ 冬季にウミガメの誤食が多いのは、えさであるクラゲと間違えて食べるからだと考えられている。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ようやく^{とちめき}智明とまたふたりきりになれたのは、夕食のあとの自由時間。

ちよつと散歩してくる、と章^{あやむら}くん^ちに断って、ぼくらは海辺へくりだした。

星空のまばゆい夜だった。濃紺^{のうこん}の間の中、ちくちくと瞳^{まなこ}を刺すような光が、水平線の奥のほうまでもずっと続いている。ぼくらはその下をぶらぶらと歩いて、別荘^{べつそう}からだいぶ遠ざかったころ、平らな岩場に並んで腰かけた。足下の暗がり^{くろ}で何十匹もの船虫^{ふなむし}がいっせいに飛びのいていった。

「五年前、最初にここに来たときのこと、おぼえてる?」

船虫の影^{かげ}を目で追いながら、智明がぼそつと切りだした。

「五年前?」

「うん。なんかもう大昔みたいだよな」

「だよなあ」

当時の記憶^{きおく}はあいまいだった。だって、ぼくはまだ小学三年生だったから。じゃがまるは小さすぎて連れてきてもらえなかった。そんな時代だ。

「あのときさ、正樹^{まさき}くん^ちって子も来てたじゃない」

「ああ、うん……」

「ほらあの、章^{あやむら}くん^ちとしょっちゅうけんかしてた子」

「うん、うん」

思い出した。

A
正樹くんは章くんの父さん方の親戚^{しんせき}。ぼくらとはその夏が初対面だった。気ままというかわがままというか、とにかくマイペースな男の子で、みんなが勉強^{べんきやう}していてもひとりりで遊んでたし、もちろんクラシック鑑賞^{かんしょう}なんてつきあわずに、さっさと部屋へ引きあげていった。ぼくはうらやましかつたけど、章くんはいつも I していたっけ。

「正樹くんがここに来たの、あの夏が最初で最後だったよな」

智明の声が重く響いた。

「つぎの年からは、もういなかった」

「うん」

「なんでだと思う？」

ぼくには返事ができなかった。

「四年前はさ、貴ちゃんも一回、来たじゃない」

「ああ、貴ちゃんね」

貴ちゃんのことによくおぼえている。スーパーマンみたいな小学生だったから。

「すごい子だったよね。勉強できるし、スポーツも得意だし、掃除なんかもささっとやっちゃってさ。小野寺さんにも、料理の筋がいい、なんて言われちゃって。何やったってみんなの一番で、体も章くんよりでかいから、ぼくらと同じ年なのに、なんか一番年上みたいでさ……」

そこまで **II** しゃべってから、ぼくははたと口をつぐんだ。その貴ちゃんもつぎの夏には、ぼくらの前から消えていたんだ。「また会おうね」
って約束して、にこにこ手をふって帰っていったのに。

「つまり、そういうことだ」

智明が言った。

「章くんに逆らったり、章くんよりできるところを見せたりしたら、もうここには呼ばれなくなる」

脳天にがつんと来た。

ぼくは一瞬、どうすればいいのかわからなくなって、とっさに海へ目をやった。暗い暗い夜の海。遠い岸辺に灯台の光が見える。その光がぐるりとひとまわりしても、ぼくにはまだどうすればいいのかわからなかった。

「じゃあぼく、どうすればいいのかな」

情けないけど、ぼくは智明に訊いてみた。

「今までどおりにしてればいいんだよ。章くんの言うことをきいて、章くんより目立たないようにして」

「章くんの言うことがいやになってるも？」

「いやな顔なんて見せるなよ。隠すんだ。隠しとおすんだ」

「できるかな」

「おれは去年からそうしてたよ」

ぼくはおどろいて智明にむきなあった。

智明は苦しい笑顔をこしらえて、

「だっておれ、今年もここに来たかったから。おまえや、ナスや、じゃがまるとき、また一緒に遊びたいじゃん。そうでなきゃなんか、夏って感じ、しないもんなあ」

たしかにそうだった。

D この別荘で過ごす二週間の夏。それはぼくらにとって本当に貴重なものなんだ。みんなが勢揃いして遊べるのなんて、この機会を逃すと、ほかにない。やかましい家族から離れて、ぼくらだけの世界にひたれるこの大事な夏を、ぼくは絶対になくしたくなかった。

「帰ろ。そろそろシューマンの時間だよ」

智明が元気なく言って、立ちあがった。そのまま両手を腰に当て、ぐぐっと体をそらしながら、

「おれね、今年ここに来てみたらさ、章くんより背が伸びてたんだ。ほんの少しだけど。でもなんとなくそのこと、章くんにはバレちゃまずい気がして、いつも猫背なの」

「そうか」

そんな苦労までしてたのか。

「じゃ、ぼくらの部屋にいるときは、ぴんと伸ばしてなよ」

ぼくも元気なく言って、立ちあがった。

③ お互いをいたわりあう老夫婦みたいに、ぼくらは来た道を III と引きかえしていった。

* シューマン（一八一〇～一八五六） ドイツの作曲家。

問一 —— 部①～③の語句の意味として適切なものを、あとのア～エからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

① あいまい

ア はっきりしない イ はっきりした ウ 明るい エ 暗い

② しょっちゅう

ア ときどき イ 熱中して ウ いつも エ 派手な

③ いたわる

ア 苦労する イ 大切に作る ウ 残念に思う エ いたずら

問二 —— 部A「正樹くんは章くんの父さん方の親戚」とありますが、この一文で使われている表現技法として、最も適切なものをあとのア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 倒置法 ウ 体言止め エ 反復法

問三 本文中 **I** **III** に入る適切な語句として適切なものを、あとのア～エからそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|-----|---|------|---|------|---|------|---|------|
| I | ア | けらけら | イ | かりかり | ウ | どきどき | エ | さばさば |
| II | ア | わくわく | イ | おろおろ | ウ | とろとろ | エ | べらべら |
| III | ア | るるるん | イ | ぐんぐん | ウ | しとしと | エ | とぼとぼ |

問四 — 部B「貴ちゃんもつぎの夏には、ぼくらの前から消えていた」とありますが、それはなぜですか。その説明として最も適切なものを、あとのア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 貴ちゃんが、ぼくや智明たちと遊ぶことをつまらなく思い、自ら来なくなったから。
- イ ぼくたち全員が、一番だった貴ちゃんをつまらなく思い、貴ちゃんを誘うことをやめたから。
- ウ 貴ちゃんは、一番年上なので次の年からは忙しくなり、遊びに来る暇がなくなったから。
- エ 貴ちゃんが、章くんより目立っていたので、つまらなく思った章くんが誘うことをやめたから。

問五 — 部C「章くんより目立たないように」とありますが、そのために智明が今年からしていることは何ですか。次のことばにつながるように、本文中から**五字**でぬき出して答えなさい。

五字

で過すこと。

問六 — 部D「この別荘で過ごす二週間の夏」とありますが、「ぼく」は別荘で過ごす二週間の夏をどのようなものだと考えていますか。智明の考えを明らかにしながら六十五字以内で説明しなさい。ただし、解答には次の語句を必ず使用しなさい。

貴重 絶対

問七 本文中に書かれているア～エの出来事が、起こった順番になるように過去から現在に並びかえて記号で答えなさい。

- ア 貴ちゃんが別荘にやってきた年
- イ 智明が嫌な顔をしないようになった年
- ウ 正樹くんが別荘にやってきた年
- エ シューマンの曲を夜に聴いた年

問八 あとの選択肢ア～エについて、本文の内容と合っていれば○、誤りがあれば×で答えなさい。

- ア 現在のぼくは中学二年生であり、貴ちゃんが来たのはぼくが小学四年生のときである。
- イ ぼくは、智明が章くんに対して我慢していることを知らなかった。
- ウ 「ぼくらの部屋」とは章くんも一緒にいる部屋のことである。
- エ ぼくらはこれから帰って、みんなが大好きなシューマンのクラシック鑑賞をする。

問題はこれでおわりです。